

一戸一晃 写真展

伝えたい、六ヶ所の風景

～六ヶ所村を訪れた野鳥とその仲間たち～

会期:2023年4月22日(土)～7月2日(日)9時～16時

会場:六ヶ所村立郷土館 多目的ホール

ギャラリートーク:4/22, 5/6, 6/10 10時～11時

主催:六ヶ所村立郷土館

共催:公益財団法人環境科学技術研究所

長年、六ヶ所村で撮影してきた野鳥や小動物の写真を一堂に展示し、写真展として、広く六ヶ所村民の皆様をはじめ、村外の方々にもご紹介できることを、うれしく思っております。

公益財団法人環境科学技術研究所に勤務しながら、長年にわたり、六ヶ所村に棲息している野鳥や小動物を撮影してきました。六ヶ所村発行の広報誌には、それらの写真を連載し、六ヶ所村の豊かな自然と素晴らしいさを村民の方々に紹介することができました。

この写真展開催に合わせて、ギャラリートークを設定いたしました。私たちの身の回りに住んでいる野鳥や小動物たちの生態から、その貴重な瞬間をとらえた写真について、直接、皆様にお話をしたいと思います。

最後に、この企画展を主催していただいた六ヶ所村立郷土館と、共催していただいた公益財団法人環境科学技術研究所の職員の方々に感謝申し上げます。そして、この企画展が、六ヶ所村の魅力の発掘・発見・発信につながることを願っております。



いちのへ かづあき
一戸 一晃



ヌマガレイを捕らえたミサゴ
2022年4月21日 午前4:55
尾駁沼(六ヶ所村)



冬毛のテン

2010年3月13日 六ヶ所村鷹架発茶沢地区



ホオアカとニッコウキスゲの群落

2022年6月18日 六ヶ所村平沼地区



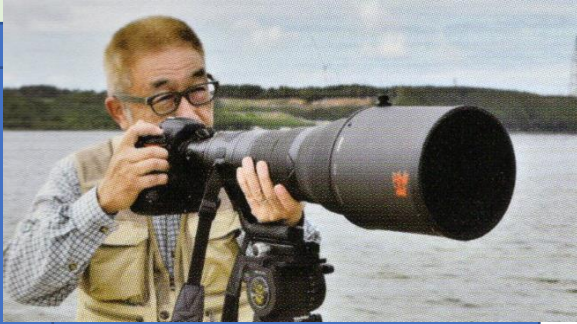
尾駁ニシンを捕まえたオジロワシ

2019年3月1日 六ヶ所村商工会前



夏毛のテン

2019年7月22日 六ヶ所村老部川土手



一戸 一晃

いちのへ かづあき

住所 青森県青森市在住

〈受賞〉

2007 年 六ヶ所村「故郷」写真コンクール
入選（みちのく銀行六ヶ所支店）

2010 年 善行表彰（六ヶ所村）：小学校の
野外学習への長年の貢献

2019 年 第6回 J-POWER 写真コンテスト
佳作第3席（東奥日報社主催）

2022 年 第9回 J-POWER 写真コンテスト
優秀賞3席（東奥日報社主催）

〈写真展〉

2010 年 企画展「尾駁沼を訪れた鳥や動物
たち」（六ヶ所村立郷土館）

〈出版〉

2021 年 写真集「六ヶ所の棲みか」
（六ヶ所村教育委員会）

〈映像〉

2022 年 「六人〜写真家 一戸一晃〜」
（六ヶ所コミュニケーションテレビ）

1957 年 青森市に生まれる

- ・小学校時代：自宅の裏がリンゴ園等で「昆虫少年」として日々を過ごす。
- ・小学5年生：国鉄職員の叔父よりカメラを譲り受け蒸気機関車の撮影を始める。
- ・中学校時代：母親の家系が代々鉄道屋なので「末は国鉄の技師長」を目指す。
- ・高校2年生：畑正憲のエッセイ（もの言わぬスターたち：著者が努めていた生物映画制作会社での日々を綴ったもの）を読み、大学で生態学を極めたいとなる。

1977 年 東邦大学理学部生物学科（千葉県習志野市）入学

- ・アホウドリの保護に取り組んでいる長谷川博先生の生き方に感銘を受け野鳥観察に興味をもつ。
- ・動物雑誌「アニマ」（平凡社）に野生生物写真を寄稿している嶋田忠氏の存在を知り動物写真家を夢見る。

1981 年 東邦大学理学部生物学科卒業、

（公財）実験動物中央研究所入所（神奈川県川崎市）

- ・日本野鳥の会神奈川支部開催の探鳥会等に参加して野鳥観察・撮影を始める。

1993 年 同研究所退所、（公財）環境科学技術研究所入所

- ・山菜採りのかたわら野鳥観察・撮影を続ける。

2005 年 尾駁小学校の野外学習の手伝いをきっかけに、尾駁沼を観察フィールドに定め、本格的に野鳥観察を行う

2007 年 デジタルカメラに移行して、出勤前の野鳥撮影を日課とする

- ・尾駁沼を泳ぐツキノワグマ撮影（フジテレビ等で放映、東奥日報等で報道）
- ・ソデグロヅルの青森県初観察（朝日新聞掲載）

2010 年 「広報ろっかしょ」の裏表紙に不定期で野鳥記事を掲載

- ・Style Rokkasho 11（六ヶ所人のスタイル通信：広報ろっかしょ3月号）に記事掲載

2012 年 環境科学技術研究所HP扉絵に「六ヶ所の風景」と題して風景や野鳥等の写真を掲載

2015 年 青森県におけるツノメドリの初観察（Strix Vol.32、日本野鳥の会）

2023 年 （公財）環境科学技術研究所退職

- ・六ヶ所村内で約230種類の野鳥を観察する
- ・退職記念写真展開催「伝えたい、六ヶ所の風景」